



游本方箋之帖  
書札  
下







四季詩歌

今春	松花堂	先年	孝以
花山	乘德	花名	亲淳
風片	孝雄	魏公	亲海
風片	亲淳	魏万	松翁
花山	朝睡	珠玉	友闲
風山	松翁	明学	方正

● 牙目





小望	養和	夏社	頤州	床系	蕪年
松翁	僻野子	憲系	系貞	系回	系淳
	明之	山祿	茂帝	風行	畫梅
	久然	仲安	森庵	松翁	友閑



今日不知誰  
 計會春風去  
 冰一時來



ちかたつふらふら  
ふやふらふら  
ふらふらふら  
けふふらふら

先遣

初風

報消息



續教

字

說

之  
力

柳  
心

之  
心



美人  
子  
云

の  
菜

+

花  
新  
画  
石

物  
陽  
洞  
鳥

老  
歸

時  
為  
苦  
吟



あつらひかきあ  
はるかにあは  
れぬのこゝろ  
かたむね

花のこゝろ  
あはれぬ  
かたむね



志願無之於世

——  
事如流水

如也

心乃如也

心乃如也

風暖

卷七 羽華 月如洛

水



行心之  
子之  
多子  
あ

勢以竹葉  
雖  
入夏軍







中流萬葉清言  
夜滑風襟菊  
遠先杜涼

ほろろ  
五月此  
あ  
か  
か



ふらけりてはこころの  
水をとけぬはなを  
たふしとてはなを  
かきとてはなを

花のうらみ  
あはれとてはなを  
かきとてはなを  
かきとてはなを



たのむ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

珠 顯 形 空 隨

日 長 瓊 花 如

葉 味 得

霜 生



五月廿三日

空山雨後

山色有无中

竹喧归浣女

响水落清听

随意春芳歇

風荷老葉蕭

疎綠小蓼紅

花舞亂紅



あち寸紫流不  
しちあむちる  
何のハし好む  
なると何七好む

明く仍在誰道年  
於屋之略くり  
積雪片於床



そのまゝあはれまゝの

かゝるの

いかにあはれまゝ

ほろろあはれまゝ

あはれまゝの

あはれまゝの

あはれまゝ

あはれまゝ



盡扇月落袂  
調白雪之聲青  
玉燈殘風傳昭  
苑之曲

多とふあは  
きしと  
きふきり  
ゆれよのん  
すけかあけ



秋乃松風之吟也  
志行先之乃也  
かきしん  
よのひも  
かきしん

夜心松風  
まきしん  
白海夜  
かきしん



系之れ月やうらみ  
春の足は多岐の葉  
しるしう、世の  
うらみれきけふ

風雲の向人  
前首の月  
難はるる志



頌傳於世唐太  
子賓客白樂天  
亦嗜酒作酒功  
讚以繼之

乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃



あきまのまき乃こつて  
ちとせむをいしはの  
はあれむのけも  
うひまういさうねと  
かまふと

成  
子  
画  
風  
子  
画  
成  
子  
画  
風



夏衣まてしくい。

たろむらむ

のころふにたそ

なむも教は

山菜向宵

斜陽裏

心廻縁水

途瀬間



神  
た  
乃  
た  
乃  
た  
乃

た  
乃  
た  
乃  
た  
乃

西  
行  
流

た  
乃  
た  
乃  
た  
乃  
た  
乃



明く見忠禮玉流  
右毛了るるを  
未多相よし女徳  
帰る鳴る

信矣

小翠宮之ついで  
悲恋のついで  
大いし



下筆如神

下筆如神

如神

如神

如神

跋

跋

集松老師... 淵源以故... 日門堪為之... 松翁為兩下... 跡而損此... 變鈎集為... 卷以附別



刷氏庶傳之石枵也同好之士取  
法於新則畫非松花之米之  
與之神過米老師斯筆切  
其偉哉

明和辛卯之夏河載齋齋謹跋



松花堂主人弟子筆

△筆花法帖 書札 二冊

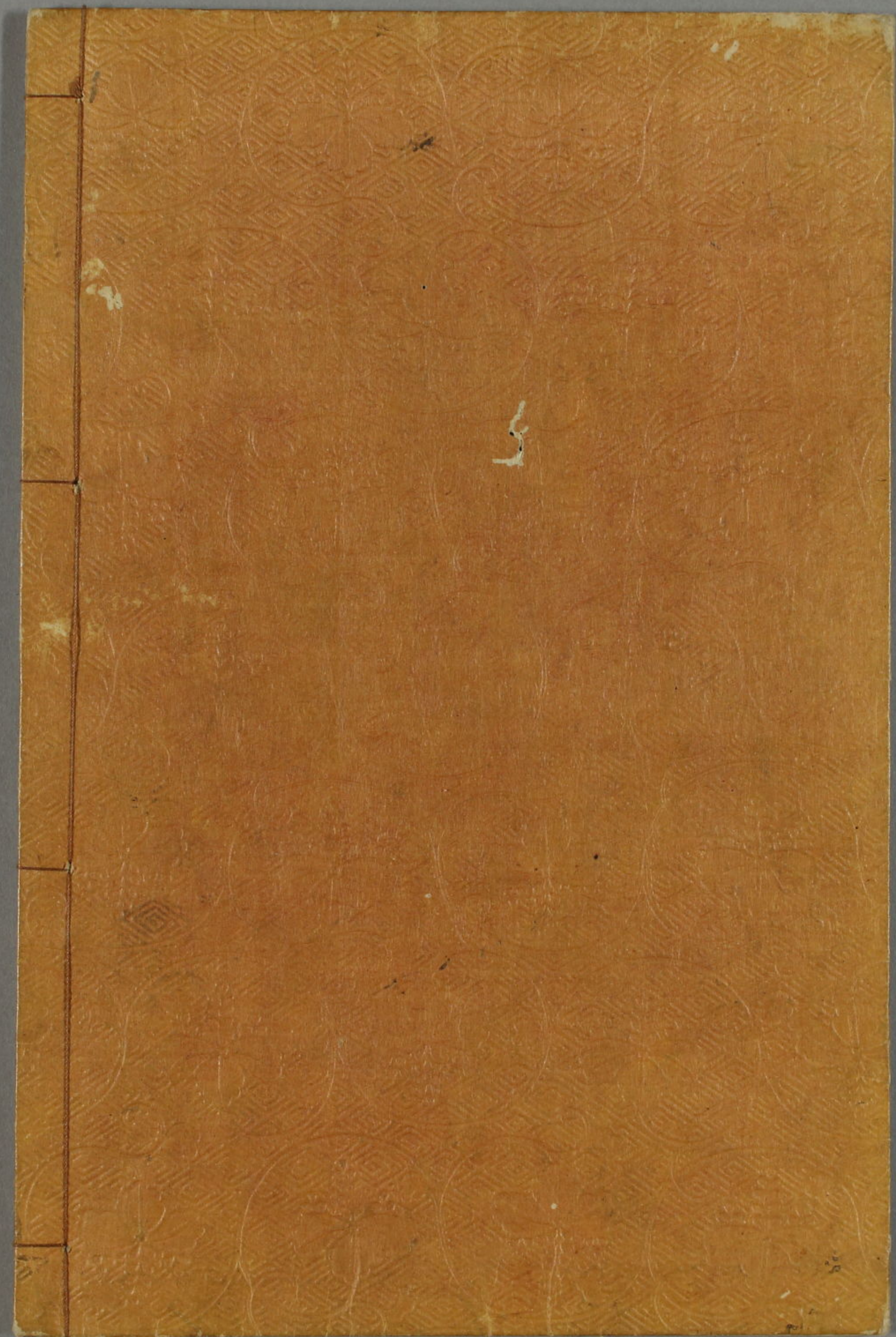
常盤帖 詩哥 二冊

明和八年辛卯初夏

室町二丁目

江劫書母 須原屋市玄清梓







松花堂并诸门弟子等  
山地通辅书附

常盤帖 二卷

東茂書林

申椒书梓

日本橋町室町二丁目

